

ら　　うす 羅　白　事　業　場

最果ての秘境、また知床旅情で代表されるここ羅臼町は知床半島に位置し、人口約9,000人である。根室海峡に面し国後島と対する近海では、さけ、ます、たら、いか、こんぶ等海の幸に恵まれ年間水揚げは10億円にも達し道内でも有数の漁場と言われている。1964年には国立公園地区に指定され夏は観光客でにぎわい、冬はオホーツク北部で生じた海水が流水となって漂着し漁船の出漁を阻む一方、寒い冬の北海道の風情を漂わせています。

羅臼事業場までの道順は、標津線の終着駅である標津町より、バスで1時間半(約40km)羅臼岳登山口に温泉旅館が集まっており、そのほぼ中央で当場の素朴で巨大な門柱を見つければ容易である。この門柱であるが、明治27年に付近の温泉が大量に噴出して泥土を押し流した時に埋もれた木の幹が、工事の堀削中80年振りに堀り出されたものであり、手を加えずに自然のままに生かしてみました。此の門柱より古いのが、当場の歴史で明治25年に創設され主に羅臼地区のふ化事業を担当してきたが、昨年10月31日に資源増大計画の一環として収容能力を増しスマートな金茶色をした近代的建物へと変身した。

職員は、この道30年以上と筋金入りの鴨志田場長と小生の二人ですが、捕獲担当河川が7河川もあるので事業期には眼の廻る忙がしさです。その半面余暇を利用しての山登り、豪快な海釣り等楽しみもあります。

施設の概要は、平屋鉄骨造り、片屋根スパーサイディング壁で900㎡の大きさである、卵子の収容は増収アトキンス式を用い1,920万粒の能力をもち、ふ化槽の下は養魚池に工夫されている。これら屋内養魚池は715㎡、屋外は225㎡である。この養魚池の特長は従来の

上流部せき板による注水の他に底層注水方式を採用し稚魚の健全育成を計っている。飼育池は屋外にあり面積515㎡で前述のせき板、底層注水の他に側面よりシャワー式のものも併設されており飼育時の水量、DO不足等の問題を解消している。

さて我々にとっては生命ともいうべき用水であるが、羅臼川本流より延長900mを250㎍塩ビ管で導水しており最大導水量は毎分15ℓであるから水量の心配は殆んどないであろうし、上流部には家一軒ないので卵子、稚魚にとっては無公害の用水といえよう。

また用水に掛る特色として温水槽があげられる。ます卵に対しては本流水をそのまま用いるがさけ卵の場合羅臼地区に於ける親魚の斥上期が遅い為(11～12月)水温の低下は逃がれないので余剰温泉を利用して長さ20mのプールに銅管を50本配管しボイラー式で水温を上昇させている。例えば厳寒期の河川水温が2℃の時でもふ化用水が8～10℃に保て、能率的な事と魚種に適した水温の調整が可能となっている。

当面の問題としては本流より直接導水しているので浮泥の多いのには閉口しますがろ過池の設置によりこの悩みも近年中には解消されるものと期待しております。

最後にPRとして当場の宿泊施設の御案内をします。新設ふ化室内に和室二部屋(8、6畳)と寝具一式を備え宿泊できるようになりました。設備は温泉による浴室、炊事場、洗面所です。食事の提供はできませんので、炊事場を利用するかまたは近くの食堂でお願いします。旅行、レクリエーション等で御利用の方は、根室支場または当场へ御予約下さい。

(農林技官 松 島 豊)